

令和6年度 千住介護福祉専門学校 自己点検・自己評価結果

令和7年2月 自己点検・自己評価委員会

1. 学校自己点検・自己評価の目的

学校法人東都医療福祉学院「千住介護福祉専門学校」(以下本校)は、厚生労働省及び東京都より指定・認可を受け、平成20年4月に開校した。3月には第16期生が卒業し、卒業生は延べ319名となり、その多くが介護、福祉、医療の現場で活躍している。

～本校の教育理念～

- ①地域にねざし、地域とともに歩む学校
- ②介護現場に学び、ともに進む学校
- ③学生の成長を支援する学校
- ④教員の資質向上を迫及する学校
- ⑤ネットワークで、医療・福祉の連携をはかる学校

本校の教育理念・目的及び社会的使命を達成するために、自己点検・自己評価委員会規程を平成30年3月22日に制定し、その活動状況について不断に自ら点検・評価を行い、学校運営の改革・改善を進めることを目的としている。

2. 学校自己点検・自己評価の実施方法

1の目的を達成する為に、「専修学校における学校評価ガイドライン」(平成25年3月 文部科学省生涯学習政策局)に準拠した学校評価項目に基づいて、学内の諸活動、諸組織の運営に関する点検・評価を実施する。

- (1) 年度ごとの自己点検・自己評価結果報告をうけ、これを全学校的立場から点検・自己評価する。
- (2) 前号の結果は 毎年とりまとめて、本校構成員(教職員・学生)及び実習施設に開示し、理事会に報告する。またホームページをつうじて外部に公開する。
- (3) 自己点検・自己評価の結果によって、新たな施策を策定しようとするときは、自己点検・自己評価委員会は、その諮問に応じ、必要な意見具申を行う。

3. 重点目標・計画

- (ア) 教育内容の充実と就職支援の充実。
- (イ) 介護福祉士を目指す学生確保と育成を行う。
- (ウ) 附帯事業、補助活動事業の取り組みを拡大する。
- (エ) 情報の共有化と学校管理運営の改善。
- (オ) 財政基盤の安定化を図る。
- (カ) 地域に開かれた学校の取り組み。
- (キ) 外国人留学生を積極的に受入れる。

本校の留学生受入れのスタンス。

- ①積極的かつ能動的に介護の仕事にやりがいを持つ留学生を受け入れる。

- ②留学生の尊厳に配慮した学修と生活指導を行う。
- ③入学後の日本語能力の向上を含む勉学に必要な支援を行い、介護現場を支える優れた介護福祉士を養成する。

(ク) その他

- ①高等教育の修学支援新制度の確認校をめざす。
- ②職業実践専門課程の認定校をめざす。
- ③キャリア形成促進プログラムの認定校をめざす。
- ④学校の理念に相応しい教育環境施設・設備の整備を進める。
- ⑤教職員のキャリアアップを可能にする中長期的な政策を策定する。
- ⑥無差別平等の介護の実現に向けて、関係団体と協力する。

4. 評価結果

【評価尺度】

基準1 教育理念・目的・育成人材像

	自己評価
1-1 理念・目的・育成人材像	3.5

基準2 学校運営

	自己評価
2-2 運営方針	3
2-3 事業計画	4
2-4 運営組織	4
2-5 人事・給与制度	4
2-6 意思決定システム	4
2-7 情報システム	4

基準3 教育活動

	自己評価
3-8 目標の設定	4
3-9 教育方法・評価等	4
3-10 成績評価・単位認定等	3.5
3-11 資格・免許の取得の指導体制	4
3-12 教員・教員組織	4

基準4 学修成果

	自己評価
4-13 就職率	4
4-14 資格・免許の取得率	4

4－15 卒業生の社会的評価	4
----------------	---

基準5 学生支援

	自己評価
5－16 就職等進路	4
5－17 中途退学への対応	3
5－18 学生相談	4
5－19 学生生活	3.75
5－20 保護者との連携	3
5－21 卒業生・社会人	3.3

基準6 教育環境

	自己評価
6－22 施設・設備等	3
6－23 学外実習、インターンシップ等	4
6－24 防災・安全管理	3.5

基準7 学生の募集と受入れ

	自己評価
7－25 学生募集活動	3
7－26 入学選考	4
7－27 学納金	4

基準8 財務

	自己評価
8－28 財務基盤	3.5
8－29 予算・収支計画	4
8－30 監査	4
8－31 財務情報の公開	4

基準9 法令等の遵守

	自己評価
9－32 関係法令、設置基準等の遵守	4
9－33 個人情報保護	4
9－34 学校評価	4
9－35 教育情報の公開	4

基準 10 社会貢献・地域貢献

	自己評価
10-36 社会貢献・地域貢献	4
10-37 ボランティア活動	4

5. 達成状況、課題と解決方策

≪達成状況≫

(ア) 教育内容の充実と就職支援の実施

校外授業や体験授業などに積極的に取り組み、学生の理解を深め利用者の立場にたった介護の実践的教育に努めた。介護福祉士国家試験対策講座を開催し資格取得を支援した。また、就職支援の充実のため、就職担当教員を決め、よりきめ細かい就職指導を行った。

(イ) 介護福祉士を目指す学生確保と育成

正確かつ新しい情報をホームページ、宣伝媒体、広告に掲載した。遠方でも参加できるよう、オンラインを利用した説明会を行った。オープンキャンパス・個別説明会では、在校生の協力のお陰で参加者にとって必要な情報を提供する事ができた。卒業生や近隣の介護現場の職員にも協力を依頼する事で、提供する内容がわかりやすいものとなった。

(ウ) 附帯事業、補助活動事業の取り組み

実務者研修や国家試験対策講座に取り組んだ。さらに、次年度からの募集開始を目指し、EPAルート向けの「介護過程Ⅲ」講座の申請を行なった。教育訓練給付金（一般および専門）を受託して受け入れ活動を行なった。

(エ) 情報の共有化と学校管理運営の改善

教職員全員参加の運営に努力した。

(オ) 財政基盤の安定化を図る

累積赤字の改善を目指し、経営状況と情報の共有を継続的行なった。財政基盤の改善に向けた取り組みは「千住介護福祉専門学校の現状と将来構想（以下「短・中長期事業計画」という。）」に示されており、計画に沿って進めた。

(カ) 地域に開かれた学校の取り組み。

区や事業所の講習会、高校などの講師に、積極的に教員の派遣を行った。災害時には、講堂やラウンジを地域における避難所として開放することとしている。

(キ) 外国人留学生を積極的に受け入れる。

- ①留学生説明会で学習内容と介護業務について丁寧に説明し、説明会への参加を出願要件とした。
- ②外国人介護士を募集する複数の法人に修学資金、奨学金を活用しつつ留学生の学費、生活費の支弁を依頼した。同時に、入学試験に合格した留学生には支弁法人でのアルバイトを検討してもらい、留学生と法人とが対等に選考できるマッチングを行った。在留資格の申請手続き、日常生活上の困りごとや体調不良時の対応など、留学生支援の体制を整えた。
- ③日本語能力向上のため、授業とは別に日本語学習の課外授業を実施し、日本語能力検定試験の受験を促している。また、意欲的に学習に取り組んでもらえるよう、N2以上の合格を申請要件の一つとする、学費の減免制度を設けている。

(ク) その他

- ① 2024年8月30日に高等教育の修学支援新制度の確認校（介護福祉学科）となった。
- ② 2025年3月24日に介護福祉学科が職業実践専門課程に認定された。
- ③ キャリア形成促進プログラム認定申請に関しては引き続き検討を行うこととした。
- ④ 教育環境施設・設備の整備は、厳しい経営状況下ではあるが中長期計画に示されたことを目標としていく。
- ⑤ 本年度も教職員の専門性の向上のために、外部研修の機会を充実させた。
- ⑥ 無差別平等の介護の実現に向けて、関係団体の倫理研修会に参加した。

《課題と解決方策》

課題は、財政基盤の安定化である。見直しを行なった新たな短・中長期事業計画を一步一步着実に進める。